

早発卵巢不全患者等妊よう性 温存治療助成試行事業の創設 について

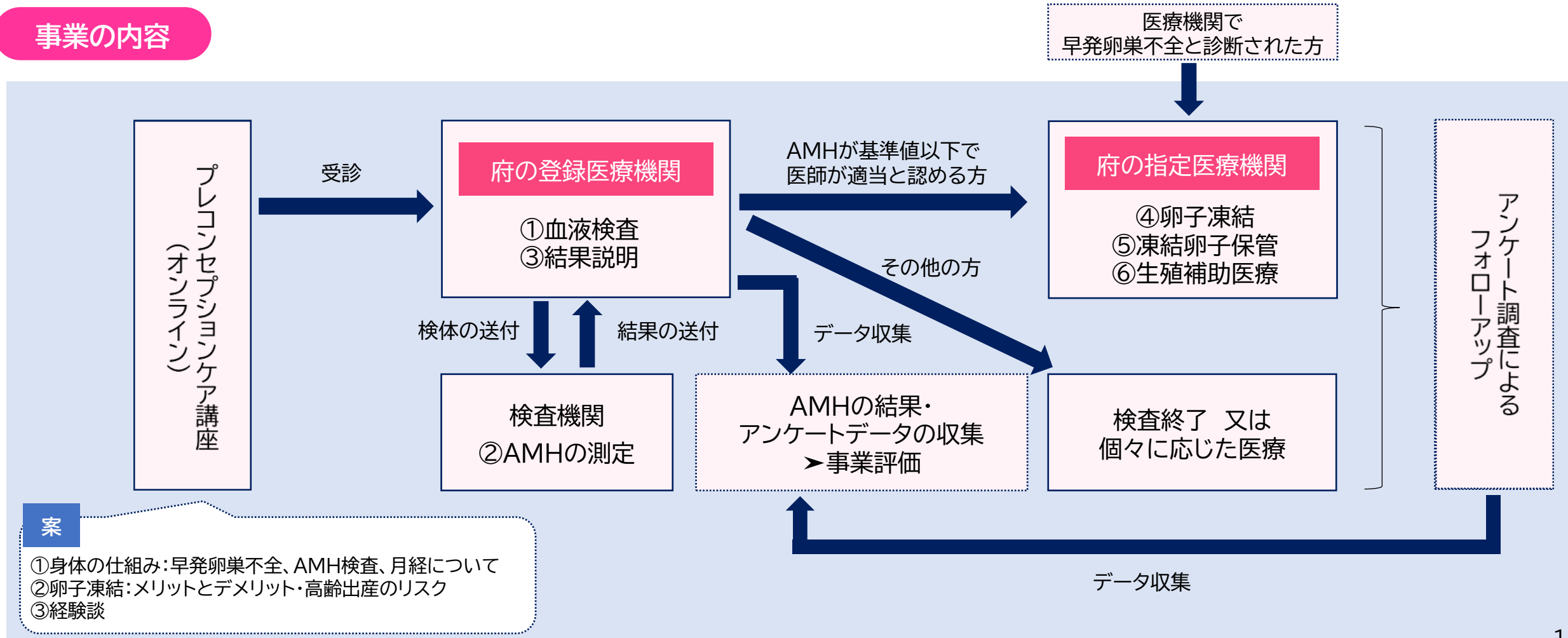
令和7年4月16日

事業の概要

事業の目的

- 若い女性が、プレコンセプションケアに関する正しい知識を身に着け、自身の身体の状態を知った上で将来を考え、健康管理を行えるよう支援。
- 令和7年度から5年間(令和11年度まで)の試行事業として実施。令和12年度以降は、事業効果等を踏まえて検討。

事業の内容



事業詳細

	講座	AMH検査	卵子凍結		保存維持管理	生殖補助医療
要件	・18～39歳女性 ・府内在住	・18～39歳女性 ・府内在住 ・講座受講済み (受講後アンケート回答) ・講座受講後、当該 年度内に受検	・18～39歳女性 ・府内在住・未婚 ・府助成のAMH検査 で基準値以下(4 ^{ハﾟ} -ジ) かつ医師の意見	・～39歳女性 ・府内在住・未婚 ・医療機関で早発 卵巢不全の診断	・府内在住 ・府の助成を受け 卵子凍結 ・府年次調査(※2)へ回答	・～42歳女性 ・府内在住 ・府の助成を受け 卵子凍結
要件判断 の 基準日	年齢:受講時(※1) 住所:受講申込時	年齢:受検日(※1) 住所:助成金申請時	年齢:採卵日(※1) 住所:治療開始から助成金申請まで		住所:助成金申請時	年齢:治療開始日 住所:治療開始から 助成金申請まで
助成 上限額	—	1万円	20万円 ※採卵したものの卵が得られない、又は状態の良い 卵が得られないため中止した場合10万円/回		2万円/年	25万円/回 ※以前に凍結した胚を 移植する場合10万円/回
回数	年度中1回 ※希望者数が上限に達し ない回は、2回目の方も可	1人1回	1人1回 (年度中の実施分の金額合算可能)		試行期間終了まで	～39歳:6回 40～42歳:3回 ※1子毎に回数リセット可 (12週以降の死産の場合も)
備考	【定員】 各回200人 (月2回開催を想定)	【対象費用】 初診料、再診料、 助言相談料、検査料	【対象外となる場合】 投薬のみで採卵行為に至らなかった場合 (卵胞が発育しない、排卵終了、体調不良で中止等)			【住所要件の対象】 夫婦のいずれか

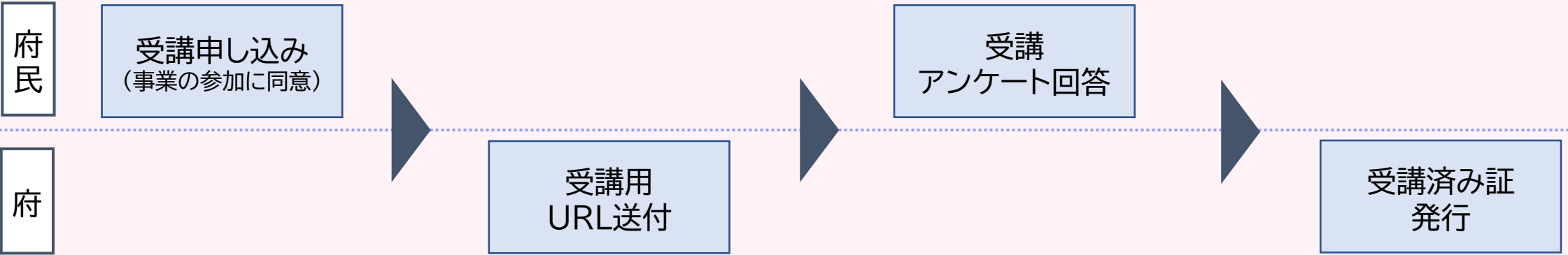
※1 年齢判断の基準日:令和7年度に限り、令和7年4月1日時点で39歳の方(令和7年4月2日から令和8年4月1日までに40歳の誕生日を迎える方)も対象とする。

※2 府年次調査:AMH受検者を対象(結果を問わず)に、年1回実施。意識や行動、身体の状態の変化を確認。(項目案は6^{ハﾟ}-ジ)

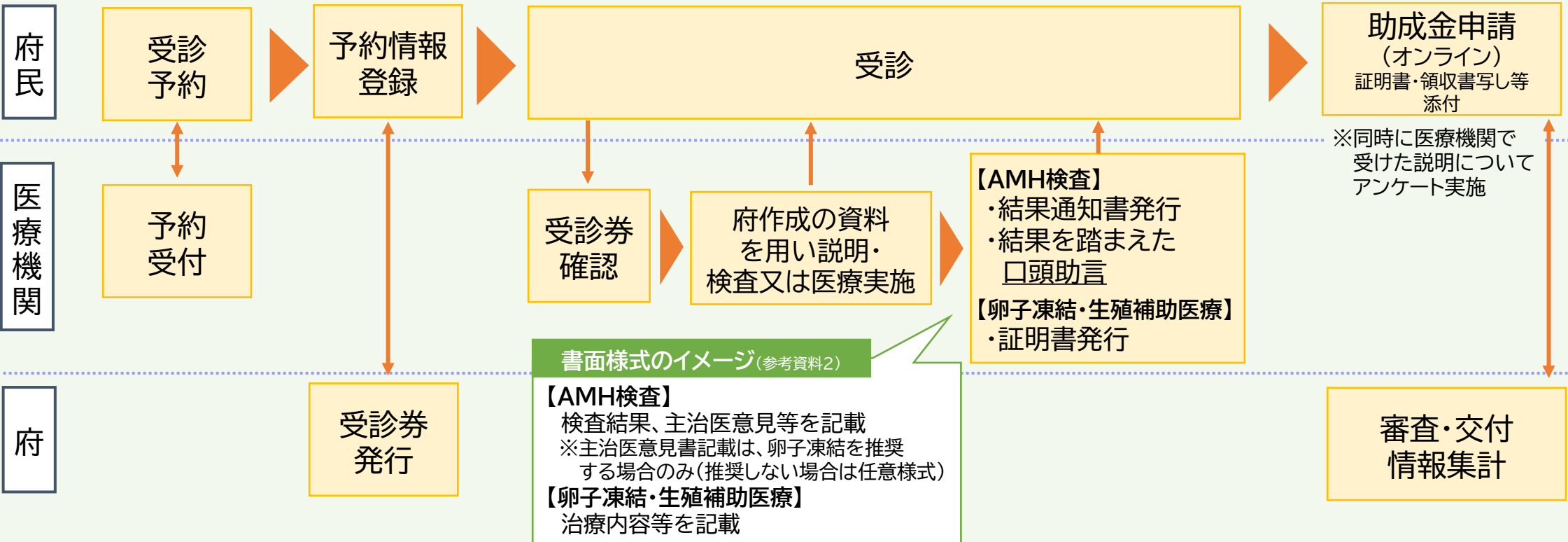
➡結果を集計し、毎年度、本事業の効果を検証する。

事業フロー

① 講座



② 検査・卵子凍結・生殖補助医療



登録医療機関・指定医療機関・AMH検査値の基準

登録医療機関・指定医療機関の要件

AMH検査を実施する医療機関: **登録**医療機関

要件案

- ①府の説明会(6月頃を予定)を受講
- ②府が示す事業実施の条件を承諾
(府作成の資料による事業の事前説明、
結果の口頭説明、結果等に応じた対応についての助言 等)
- ③府内に所在
- ④産科、婦人科又は産婦人科を標榜

卵子凍結・生殖補助医療を実施する医療機関: **指定**医療機関

- ①府の説明会(6月頃を予定)を受講
- ②日本産科婦人科学会へ、医学的適応による未受精卵子の凍結・保存に関し登録している施設であること
- ③府内に所在
※保管を同一施設で行うことを要件とするかについて要検討

卵子凍結費助成の対象となるAMH検査値の基準

案

AMH1.00ng/mL以下とする。

【参考】公益社団法人 日本産婦人科医会 研修ノートNo112基本から学ぶ不妊治療 (3)卵巣予備能とは？
5)AMHと生殖医療 図2. 年齢とAMHによるステップアップと卵巣刺激選択の目安 において
概ね30代の方において、人工授精0～2回でARTへステップアップする目安とされている。
出典: [日本産婦人科医会ホームページ](#)

本事業の登録・指定を目指す医療機関への説明会内容

医療機関への説明会

内 容 案

(1) 本事業のフローについて

(2) プレコンセプションケアについて

- ・最近の国の動き
- ・本事業のプレコン講座の内容

(3) AMH検査について

- ・専門家による暫定基準値について
- ・受検者の背景(年齢やパートナーの有無等)を踏まえた助言について

あらかじめ

カウンセリング

内容を分類

①AMHの値が1.00 ng/mLを上回っており、現時点では医学的な対応も不要。

②AMHの値が1.00 ng/mLを上回っているが、不妊治療を開始することが望ましい。

③AMHの値が1.00 ng/mL以下であり、本事業の対象者として適当。

④AMHの値が1.00 ng/mL以下だが、卵子凍結ではなく不妊治療を開始することが望ましい。

⑤その他(例えば、生殖補助医療以外の医学的対応が望ましい など)

(4) 倫理委員会への申請に際して必要な書類について

※詳細は、別途設置する事業評価に関するワーキンググループで検討。

年次調査の内容

調査内容(説明会後・講座後・年次)

本事業は試行事業であることから、府下のプレコンの推進と支援が過不足なく実施できているかを評価するため、プレコン講座受講後アンケートに加え、AMH検査の助成を受けた方を対象に毎年調査を実施。

対象者	調査目的	調査項目の例	予想される結果
医療機関向け説明会に参加した全ての医療機関	産婦人科医師のプレコンへの意識変容	<ul style="list-style-type: none"> ・プレコンについて患者からどのくらい質問されることがありますか。 ・質問があった際に、どの程度自信を持って回答できますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレコンについてカウンセリングできる医師が増加。
全ての講座受講者	府民のプレコンへの意識変容	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣を改善しようと思いましたか。 ・妊娠に対する意識が変化しましたか。 ・周りの人にもプレコンのことを伝えようと思いましたか。 ・月経不順があるが受診していない方は、受診しようと思いましたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講座によって生活習慣を変えようと思う人が増加。 ・講座によってライフプランを再考する人が増加。 ・月経不順がある人で受診する人が増加。
全てのAMH検査受検者	自覚症状等とAMH検査値の紐づけ AMH検査による意識・行動変容	<ul style="list-style-type: none"> ・現在月経不順などの自覚症状はありますか。また受診していますか。 ・現在喫煙、飲酒はどの程度しますか。 ・AMH検査を受検して、妊娠への希望は変化しましたか。 ・AMH検査を受検して、継続受診につながりましたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AMH検査が暫定基準値を下回る人は●%、年齢内訳はそれぞれ●%。自覚症状等の有無で…。 ・AMH検査を受検して妊娠希望を早めた人が増加。 ・AMH検査によって受診行動が増加。
全てのAMH検査受検者 (毎年)	卵子凍結以降の助成対象にならない方の転帰(妊娠出産予後)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在妊娠していますか(子どもが生まれましたか)。 ・現在月経不順などの自覚症状はありますか。 ・現在早発卵巢不全と診断されていますか。 ・現在不妊治療を受けていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卵子凍結以降の助成対象にならなかった方のうち、●%が自然妊娠、●%が不妊治療中、●%が早発卵巢不全 ・早発卵巢不全に至った人が多い(支援範囲が狭い)または少ない(支援範囲が広い可能性)
全ての卵子凍結助成対象者(毎年)、 生殖補助医療助成時	卵子凍結助成対象者の転帰 凍結卵子を用いた妊娠・出産の実数	<ul style="list-style-type: none"> ・現在月経不順などの自覚症状はありますか。 ・現在早発卵巢不全と診断されていますか。 ・凍結卵子を用いた治療の有無。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卵子凍結助成対象者のうち●%が早発卵巢不全(本事業で救済できた方) ・凍結卵子の使用率は●%(低い場合、支援範囲が広い可能性)

※詳細は、別途設置する事業評価に関するワーキンググループで検討。

ご意見を伺いたい項目

項目	資料ページ	伺いたい内容
プレコンセプションケア講座の内容	1	<ul style="list-style-type: none"> ・次の項目で検討しているが、この他、必ず含めるべき項目はあるか <ul style="list-style-type: none"> ①身体の仕組み：早発卵巣不全、AMH検査、月経 ②卵子凍結：メリットとデメリット・高齢出産のリスク ③経験談
AMH検査助成の対象要件	2	<ul style="list-style-type: none"> ・医学的な観点から、対象者の要件設定にあたり配慮すべき事項はあるか（検査を受けていただくことが適当ではない場合があるか）
登録医療機関・指定医療機関の要件	4	<ul style="list-style-type: none"> ・4ページ上段記載のとおり検討しているが、問題はないか ・国の研究事業における「妊孕性温存療法実施医療機関（検体保存機関）の施設認定要件」と同様、「凍結物の保管施設は、本法を実施する施設と同一であることを原則とする」との要件を設けるべきか
卵子凍結費助成の対象となるAMH検査値の基準	4	<ul style="list-style-type: none"> ・AMH1.00ng/mL以下とする案で問題はないか
医療機関向け説明会の内容	5	<ul style="list-style-type: none"> ・5ページの案で問題はないか
事業評価の目的と、評価のために収集すべき情報	6	<ul style="list-style-type: none"> ・6ページの案で問題はないか

(参考)事業スケジュール

時期	4月 ~ 6月	7月 ~ 9月	... R8.3月
プレコン 部会 ・ 評価WG	<div>プレコン部会</div> <div>評価WG</div> <div>評価WG</div> <div>医療機関説明 オンライン講座 年次調査</div>		<div>評価WG</div> <div>プレコン部会</div> <div>年次調査 集計方法検討</div>
医療機関 登録・指定	<div>講師依頼</div> <div>説明会</div> <div>登録等申請</div>	<div>倫理委員会審査</div>	<div>府ホームページで一覧公開</div>
オンライン 講座	<div>講座内容案検討</div>	<div>収録</div>	<div>毎月2回ずつ実施 (開始当初は定員増予定)</div>
AMH検査 卵子凍結等 助成		<div>倫理委員会審査</div>	<div>随時実施</div>
年次調査	<div>内容検討</div>	<div>倫理委員会審査</div>	<div>AMH検査補助 交付決定時に回答依頼</div>